

## 観光とジェンダーをめぐる諸問題

著者	安福 恵美子
雑誌名	国立民族学博物館調査報告
巻	37
ページ	7-21
発行年	2003-03-14
URL	<a href="http://doi.org/10.15021/00001941">http://doi.org/10.15021/00001941</a>

## 観光とジェンダーをめぐる諸問題

安福 恵美子

平安女学院大学現代文化学部

### Issues of Tourism and Gender

Emiko Yasufuku

Heian Jogakuin University

観光とジェンダーに関する先行研究には、観光のマーケティングにおいて女性性が形成される様相がツーリズム・プロダクトの生産と消費という視点から示されている。また、観光関連施設における労働に対しては、ジェンダーによって異なる雇用へのアクセスが指摘されている。その一方で、女性の経済的自立や社会的地位の向上などが女性のエンパワーメントの側面として捉えられている。本稿では、観光という場におけるジェンダー関係の諸相を概観し、観光が地域社会に与えるインパクトを考察するうえでジェンダー・パースペクティブが必要であることを指摘した。そして、ジェンダーを観光構造を分析するうえで重要な概念として捉えることによって、観光とジェンダーの間にみられる相互関係について述べた。

The aim of this paper is to provide a broad review of trends in tourism and gender studies and to outline the main conceptual issues. First, the paper tries to examine the ways in which concepts of gender and social sexuality are formed, in part, by representations of women in tourism marketing. This paper also explores the often contradictory outcomes for women of working in tourism labour markets and the effects upon their status within the home and in society as a whole. Then we draw upon various issues to illustrate the impact of tourism on women and discuss tourism development from a gender perspective and the relationships between gender and tourism occurring in various types and at various scales of development, making gender one possible variable in tourism studies.

- |                     |                      |
|---------------------|----------------------|
| 1 観光とジェンダーに関する研究動向  | 4 観光による女性のエンパワーメント   |
| 2 観光のマーケティングにおける女性性 | 5 地域社会におけるジェンダー関係    |
| 3 観光における女性労働        | 6 ダイナミックな概念としてのジェンダー |

\* key words: tourism, gender, gender role, interaction, empowerment

\* キーワード: 観光, ジェンダー, 性役割, インターラクション, エンパワーメント

### 1 観光とジェンダーに関する研究動向

観光研究が学術研究の対象として取り上げられるようになったのは、1970年に入ってからである(石森 1993)。しかしながら、ホスト側の女性に関する事例研究が観光研究

の成果として登場するのは1970年代の後半においてであり、80年代前半頃までは、ホスト側およびゲスト側ともに女性に関する研究はごく僅かしかみられない。なかでも、ゲスト側としての女性に関する研究は少なく、取り上げられたとしてもそれは家族との関係においてであった(安福 1997)。

80年代前半において、買春ツアーに対する反対運動が国際的な高まりをみせるようになるなか、観光の量的拡大によって生じるマス・ツーリズムの弊害の一つとして取り上げられる買春ツアーに関わる女性に対して関心が向けられるようになる。セックス・ツーリズムはその話題性から、観光が女性に与えたインパクトの代表的な例として捉えられることが多い。セックス・ツーリズムに対しては、セックスツアー反対の立場からさまざまな刊行物が出されているが、このような立場からの研究については、その正当性に対する疑問が示されている(Graburn 1983)。

観光が地域の女性に与えるインパクトに関する研究成果が発表されるようになるのは80年代後半頃からであるが、このような動きは、観光は男女それぞれに異なるインパクトを与えている、という考えかたに基づく研究において進展する。さらに90年代に入り、つぎの三つの論文集が出ることによって、観光とジェンダーに関する研究は本格的に始まったといえよう。

まず一つ目は、1994年、イギリスで出版された*Tourism: A Gender Analysis* (Kinnaird and Hall eds. 1994)である。観光にともなう諸活動を社会関係として捉える編者は、この論文集はジェンダーの視点から観光を問い直そうとする試みであることを強調している(Kinnaird et al. 1994)。

翌年の1995年には、観光研究の専門誌『観光年報 (*Annals of Tourism Research*)』において、Gender in Tourism (Special Issue No.22) と題して、年報刊行以来初めてジェンダーについての特集が組まれた。この特集の編者であるスウェイン (Swain 1995) は、特集はこれまでの観光分析における「ジェンダーレス」なパースペクティブを問い、消費者としてのツーリスト(ゲスト)とサービス提供者側(ホスト)の両者間にみられる相互作用について論じていると述べている。ジェンダーを「文化的に構築されたアイデンティティのシステムとして、男らしさや女らしさというイデオロギーにおいて表現され、労働とレジャー活動、セクシュアリティ、そして男女間におけるパワーが互に作用することによって社会的に構築される関係性」(ibid.: 258-259)と定義するスウェインは、観光開発におけるジェンダーとジェンダー化されたレジャーに対する分析の必要性を強調する。

さらに、1997年には、観光という場における女性労働に焦点を当てた*Gender, Work and Tourism* (Sinclair ed. 1997) が出版される。大規模な施設や家族を中心とした小規模な施設、さらには地域や国や職業などによって異なる女性労働の多様性について、ジェンダー化された労働の特性およびその影響に関する分析を中心とした論文が収めら

れたこの論文集には、観光における女性労働の重要性が示されている。

観光とジェンダーに関する研究は、観光研究全体のなかでは少ないうえに、事例研究の対象地が限られている。そのため、このような研究傾向に対しては、限られた地域における調査・研究の対象が女性であり、ジェンダー分析が十分に行われていないことや、ともに新しい研究分野である観光とジェンダーの体系的な関連性についての研究が行われてこなかったことへの指摘がみられる (Norris and Wall 1994: 64; Cukier et al. 1996: 253)。しかしながら、90年代半ばにまとまって出された観光とジェンダーについての論文集には、観光現象を分析するうえでジェンダーが重要なキー・ワードとなることが示されている。

本稿においては、先行研究を基に、観光のマーケティングにおける女性性、観光における女性労働、観光による女性のエンパワーメント、そして地域社会におけるジェンダー関係を取り上げることによって、観光とジェンダーをめぐる諸問題についてみてゆく。

## 2 観光のマーケティングにおける女性性

観光のマーケティングにみられる女性性は、観光とジェンダーについて論じるさい必ず取り上げられるテーマである。前章で紹介した三つの論文集において、それぞれの編者はこの問題を観光における生産とその呈示や消費におけるジェンダー関係として捉え、男性と女性がそれらに異なる関わりかたをしていることを指摘している (Kinnaird et al. 1994; Swain 1995; Sinclair 1997a, 1997b)。

観光のプロモーションにおいては、ツーリストのまなごしの対象となる「他者」の構築が行われるが、そこにはステレオタイプ的なイメージ形成が行われる傾向がみられる。たとえば、エスニック・ツーリズムという観光形態においては、エスニシティがツーリストのまなごしの対象となるため、住民の男女がともに観光のアトラクションとなるが、なかでも伝統的な女性のイメージがツーリストに好まれることから、女性は観光のイメージ形成の重要なファクターとなっている。

観光宣伝においては、ホスト側はツーリストの望みを受け入れる存在として捉えられ、ホストの〈もてなし〉が強調されることが多いが、このような傾向は女性に対して特に多くみられる。〈もてなす〉性としての女性のイメージの強調は、「女性の商品化」を生じさせた。たとえば、レジャー施設においては、経営者側が女性従業員に女性らしさを強調した服装をさせるなど、サービス提供者としての女性性が強調される様相が指摘されている (Sinclair 1997a: 5)。ホテルや航空会社などの宣伝では、訪問地の「エキゾチック」なイメージを描くために女性が使われることが多いが、その宣伝内容には、客を迎える女性のこまやかなサービスや身体的特質などが目立つ。従順な女性による〈もてなし〉の強調は、とくにアジア諸国の観光宣伝において多くみられたものであった (Truong 1990)。このよ

うな、「女性の商品化」が顕著な観光形態がセックス・ツーリズムである。セックス・ツーリズムにおいては、エキゾチックな商品としての性サービスが女性の役割とされ、女性のセクシュアリティの強調によって女性のステレオタイプのイメージ形成が行なわれてきた。観光におけるステレオタイプ化された女性のイメージ形成は、〈もてなす〉側としての女性ばかりではなく、女性ツーリストに対してもみられる（Castelberg-Koulma 1991）。

観光パンフレットにおける男女の表象に関する研究<sup>1)</sup>や観光広告を言説として捉える研究においては、ホリデイがつくられ、ジェンダーが構築される過程にみられる相互作用や社会によって異なるツーリズム・プロダクトの形成過程が示されている<sup>2)3)</sup>。それは、「ツーリストのまなざし」とはどのようなツーリストがどのような対象に対して向けるものなのかを問うことであり、生産とその消費というシステムを支えるセクシュアリティに対する言及がこれまでの観光分析にはみられないことに対する指摘である（Cohen 1995; Swain 1995）<sup>4)</sup>。

### 3 観光における女性労働

近年、観光が女性に与えるインパクトの研究として注目されるのが観光関連施設における女性労働である。観光に関わる雇用をジェンダーの視点から捉える研究には、観光は男女両方に職業の選択肢を広げたが、そのアクセスはジェンダーによって異なる様相がつぎのように示されている。

まず、観光関連の労働については、季節的かつ短期労働やパートタイムという労働形態が多いこと、さらには未熟練労働や低賃金などの特徴が男女に共通してみられるが、このような不安定な就労形態は男性と比較して女性により多くみられることが指摘されている（安福 1997）。そして、観光関連の雇用は、たとえば、男性は運転手など輸送に関わる仕事が多いのに対して、女性はメイドなど宿泊関連の仕事が多いこと、さらには、ジェンダーによる職業の固定化は高級ホテルにおいて顕著であることなどが示されている（Long and Kindon 1997; Purcell 1997; Sinclair 1997b）<sup>5)6)</sup>。このような性別分業は、つぎのような二つのタイプに分類される。一つは、性別を問わないが、低賃金で働く女性が雇用されることが多いため、結果として性別分業が生じるような雇用であり、具体的には掃除やクリーニングなど、直接ツーリストと接しない労働がその例として挙げられる。もう一つは、女性性が男性にアピールされるような特定の職種に女性が就くことによって性別分業が生じるような雇用である。このタイプには、ホテルのフロント係りなどがその職種として挙げられるが、女性の身体的魅力によって男性客を引きつけるとして、店舗やレストラン、さらにはエンターテインメントの分野における労働もこのタイプに入る<sup>7)</sup>。セクシュアリティが職業として関わる極端な例がセックス・ワーカーであ

る。セックス・ワーカーは女性ばかりでなく男性もいるが、男性と比較して女性の数は圧倒的に多い。

観光に関わる雇用には、このような性別分業の他に、社会的分業が女性間においてもみられるが、そこには、労働の場としてのセクターの違い（フォーマルおよびインフォーマル）や観光関連施設の規模や働く女性の年齢、未婚・既婚の違い、教育などが関わる。たとえば、バリ島（インドネシア）やボロカイ島（フィリピン）においては、未婚女性は規模が大きい施設で、そして既婚女性は規模の小さい施設で働くことが多く、未婚女性のほうが高い地位であることが報告されている（Chant 1997; Long and Kindon 1997）。このような事例にも示されているように、教育がある未婚女性はフォーマル・セクターで、そして既婚女性はインフォーマル・セクターで働くことが多い。そのため、女性の年齢や未婚や既婚の違いは女性の収入に関わる重要な要因となる。なかでも、若い独身が好まれ、女性の身体的な美が求められるホテルにおいては、若者のほうが観光に関わる労働によって経済力を持つ傾向がみられる<sup>8)</sup>。このような女性間にみられる分業には、年齢や教育や未婚・既婚の違いの他に、人種やナショナリティという要因が加わる。とくに、人種という要因はエンターテインメント関連の職種と密接に関わる<sup>9)</sup>。

一般的に、途上国においては、観光による雇用機会は農業や漁業などの伝統的な労働に代わるものとして捉えられている。とくに第二次産業が発展していない国においては、サービス部門における雇用が重要な雇用機会となるため、観光に関わる雇用は先進国よりも途上国においてよりポジティブに捉えられる傾向がある（Cukier-Snow and Wall 1993; Cukier and Wall 1994）。たとえば、バルバドスでは、女性は男性に比べて不安定な低賃金労働に就き、多くの場合、家事と賃金労働のバランスをとる必要に迫られることから、女性には観光関連労働の選択肢が多くは与えられていない。しかしながら、その労働は伝統的な農業や家事労働と比較した場合良いことから、女性は観光関連の労働に就くことを選択する傾向にあるという（Levy and Lerch 1991）<sup>10)</sup>。

観光は伝統的な女性の家事労働を公の領域に移行させた。そのため、観光関連施設における女性の雇用は、家事労働の延長である低賃金の仕事に限定されがちである。男性は賃金労働と無賃金労働が女性に比べて明確な場合が多いが、女性は賃金労働と家事・育児労働との関係があいまいな場合が多い。そのため、女性は家事や育児の負担のほかに、観光によって生じた対人サービスの増加により、二重労働という過剰な労働負担を抱える傾向にある<sup>11)</sup>。家事労働の商品化傾向は、宿泊施設における家庭的な対人サービスが重要視される観光形態において顕著である<sup>12)</sup>。

観光関連の労働に従事する女性の二重労働に関しては、地域や国や職業などによって異なる女性労働の多様性がみられる。たとえば、メキシコのプエルト・バヤルタのホテルで働く女性は家事もこなさなければならないが、フィリピンのセブ島においては家事労働は男女分担が多いという（Chant 1997）。しかしながら、この二つの研究対象地域

において共通してみられるのは、ともに小規模な家族経営の宿泊施設における女性労働と家父長制との密接な関わりである。そのため、地域の男性によって、宿泊施設における女性の対人サービス労働は家事や母親の役割というコンテキストにおいて認識されていることや、観光に関わる女性労働に対しては育児や家事労働といった女性の再生産的役割が強調される傾向が指摘されている (Momsen 1994; Levy and Lerch 1991)。

#### 4 観光による女性のエンパワーメント

男女間における雇用機会の不平等を観光によって生じるマイナスのインパクトとして捉える立場から、男性優位のジェンダー・ギャップに対する指摘がある一方で、雇用による女性の経済的自立や社会的地位の向上、さらには新たな役割獲得に関する報告などからは、観光に関わる女性労働がエンパワーメントの側面を持つことがつぎのように示されている。

まず、観光施設で働く女性が得る収入は地域社会における一般的な収入と比較して高い場合が多い。そのため、女性による収入の増加が家庭内におけるジェンダー関係に与える影響が、おもに家庭内における女性の地位の向上や観光関連の労働に就くため移住する若い女性の社会的地位の向上という面においてみられる (Kousis 1989; Momsen 1994; Chant 1997)<sup>13)</sup>。観光による女性の経済的自立が顕著な例は、フォーマル・セクターにおいて習得した技術を活かした収益性の高いベンチャーに関わる女性にみられる (Fairbairn-Dunlop 1994; Chant 1997)<sup>14)</sup>。バリ島においては、女性の経済的自立がフォーマルおよびインフォーマル・セクターの両方においてもみられるという (Cukier-Snow and Wall 1993; Cukier and Wall 1995)。

観光が女性に与えたインパクトのプラス面を示す例として挙げられるのが、観光用伝統工芸品の製作・販売に携わる少数民族の女性である (Swain 1993; Cone 1995)。かつて家庭や地域内での使用に限られていた伝統手工芸品を観光用に製作したり販売することによって、女性は従来の伝統的役割のほかに新たな選択肢をもつことが可能となったという。このような報告からは、「女の仕事」が経済的価値を持つ労働として捉えられるようになったことが示されている。

宿泊施設の運営に関わる女性が経営者意識をもって主体的に観光に関わる事例は女性のエンパワーメントとしてとくに注目される。ヨーロッパのアグリ・ツーリズムやファーム・ツーリズムにおいては、対人サービス労働はその重要な担い手である女性にとって大きな労働負担となるが、同時にそれは家庭内における女性の権限の拡大につながっているという (Shaw and Williams 1994)。フィリピンのボロカイ島では、宿泊施設のコテージ運営に携わる者によってつくられた協会の活動において、女性が重要な役割を果たしている (Smith 1992)。このような宿泊施設の運営を中心とした協同組合の活動に

ついでに事例報告には、とくに若い女性の地域内における社会的地位の向上、伝統的役割以外の選択肢の増加、さらには家庭内における発言権の増大などが観光が女性に与えたインパクトのプラス面として示されている。

宿泊施設の運営における女性間のネットワークは、女性のエンパワーメントとして重要な要因と考えられるが、そのようなネットワークが組織としてうまく機能しているのが女性によって運営される共同組合であろう。その一例として、研究報告が多いのがアグリ・ツーリズムの一つとして農家の女性によって所有され、運営されるギリシャの女性共同組合である (Castelberg-Koulma 1991; Leontidou 1994; Iakovidou and Turner 1995)<sup>15)</sup>。同組合の活動に対しては、女性の経済的自立を可能にしたこと、女性ばかりでなく地域住民全体の雇用機会の創出にも役立つことによって地域を活性化させたこと、さらには地域の文化や自然遺産の保護にも関わっていることなどが報告されている (Iakovidou and Turner 1995: 482)。

女性の経済的自立という面だけではなく、観光客とのインタラクションという点においてもこの組合の活動は注目される。それは、同組合の活動は地域の女性と観光客との対面接触の機会を築いたばかりでなく、地域女性のアイデンティティの構築にも影響を与えているからである<sup>16)</sup>。文化が異なるさまざまな人々との日々の接触によって、女性たちの世界は広がりを見せているという<sup>17)</sup>。

このように、女性のエンパワーメントは観光による女性の経済的自立ばかりでなく、インタラクションという面にもみられることから、観光客とのインタラクションは女性を伝統的ジェンダー規範から開放する一手段として捉えられる。しかしながら、この点については、地域社会におけるジェンダー関係が密接に関わることを次章においてみてゆきたい。

## 5 地域社会におけるジェンダー関係

前章でみたように、観光客とのインタラクションは女性のエンパワーメントを促進する一因となる。しかしながら、その一方で、観光客とのインタラクションという局面には、地域社会におけるジェンダー差が表出される<sup>18)</sup>。たとえば、パナマのクナ族の場合、女性は伝統的工芸品の製作を行うのに対して、男性は観光客とのインタラクションをコントロールしているという (Swain 1993)。さらに、観光客とのインタラクションには、地域差や文化差がみられることが示されている。たとえば、キプロス島北部やバリ島においては、観光客とのインタラクションが制限される女性は、賃金を得る場へのアクセスも制限されているが、イギリスでは、女性は男性客と接することが仕事の一部として期待されているという (Sinclair 1997b: 230)。

このように、地域や文化によって異なるジェンダー関係は、観光施設の規模と深く関わ



りを持つ。一般的に、女性はビジネスや雇用機会を小規模な観光関連施設において見つけることが多いことから、たとえばルーラル・ツーリズムやファーム・ツーリズムなどにおいては女性の役割が大きい (Castelberg-Koulma 1991; Garcia-Ramon et al. 1995; Shaw and Williams 1994)。そのため、オルタナティブ・ツーリズムと考えられるこのような観光形態においては女性のエンパワーメントが促進されると捉えられることが多いが、伝統的な性別役割に変化はみられず、かえってホスト社会においては既存のジェンダー関係が強化される傾向が指摘されている (Long and Kindon 1997; Scott 1997)。たとえば、バリ島でホームステイの運営に関わる女性は、日々の労働や運営を担当しているにもかかわらず、地域内の観光開発に対する意志決定に対する発言権がないという (Long and Kindon 1997)。このような傾向は、観光用の伝統工芸品製作に携わる少数民族の女性にも同様にみられる (Swain 1993)。また、労働生産が家父長制と結びついた小規模なビジネスにおいては、十分な待遇や報酬を得ることができずにいた人々が、たとえば大規模なホテルなどにおいては往々にして良い条件のもとで働くことができるという逆説的な現象がみられることから、小規模な家族経営の宿泊施設で働く女性にとっては、命令系統や勤務形態が明らかな大規模な施設において雇用されたほうがよいことが指摘されている (Scott 1997: 61; Sinclair 1997b: 233)。

この点に関して、観光開発の規模がジェンダー関係に関わると考えるノリスとウォール (Norris and Wall 1994: 65-70) は、つぎのような疑問を投げかける。マス・ツーリズムに対応する大規模な観光開発は、地域に対して利益をもたらさないと批判の対象となってきたことから、オルタナティブな観光開発としての地域主導型のプラス面が多くの人々によって謳われてきた。しかしながら、はたしてジェンダーがこのような枠組みにおいて捉えられてよいのであろうかと。そして、二人は文化的バリア、行政側のイニシアティブの欠如、さらには女性労働者間の組織的活動の欠如などによって、女性が地域における指導的役割を担うのを妨げられていることを指摘し、観光に関わる労働力の多くが女性であっても、それは女性の政治的な力への接近を意味するものではないと述べる。これは、「地域社会」対「外部の者」という構図に焦点が当てられてきた地域主導型の観光開発は必ずしも地域の女性にとって利益をもたらすものではないという指摘であり、男性によって握られている意志決定権に対して女性のアクセスが制限されていることを示すものである。

このように、ジェンダー・イデオロギーというシステムと相互作用的に働く観光開発は地域のジェンダー関係を維持するばかりでなく強化するという指摘 (Scott 1997: 84-87) は、観光に対する地域の自律性が語られるときにジェンダーという視点が含まれていたかどうかを問うものである。それは、たとえば、地域のヘリテージの管理に男女の地域住民がそれぞれどのように関わるかに対する問いであり、家事労働の延長としての女性労働を必要とする観光振興が地域経済のオルタナティブとして語られることへの疑問である。

先行研究には、ジェンダーに基づく給与差、家庭生活の急速な変化、家事や育児労働

と賃金労働という女性の二重労働、さらには家庭内に限定される意志決定権などが観光とジェンダーをめぐる問題点として示されていた。地域社会におけるジェンダー関係は地域の観光構造によって異なるが、地域主導型の観光が既存のジェンダー関係を強化させていることが報告されているバリ島の場合、小規模な観光ビジネスに関わる人が多い女性は文化的、教育的、組織的な要因の他に、資本や技術に対するアクセスという点において男性よりも制約を受けることが多いことから、女性に対する支援の必要性が指摘されている (Cukier et al. 1996: 268)。

## 6 ダイナミックな概念としてのジェンダー

観光とジェンダーに関する研究には、ホスト側の女性に焦点が当てられたものが多いが<sup>19)</sup>、その視点は女性と男性は異なるかたちで観光の生産および消費に関わるという点に向けられていることにおいて共通する。そして、観光に関わる労働のジェンダー化に対する考察においては、社会的セクシュアリティが女性の雇用やツーリストとの社会的インターアクションを制限する要因として作用している点が指摘され、観光開発の過程にみられるジェンダー問題が地域の社会および文化との関わりにおいて捉えられていた。その一方で、これまで「女の仕事」として捉えられてきた労働が観光により経済的価値をもつことで、伝統的女性の労働に対する見直しが行なわれるようになったことを評価する立場からは、女性の経済的自立や社会的地位の向上がエンパワーメントとして捉えられている。

このように、観光には地域におけるジェンダー関係が表出されることから、観光はジェンダー化された現象として捉えることができる。しかしながら、ここで注意すべき点はジェンダー問題を取り上げる場合、女性の社会的経験という点において女性一般の経験、つまりユニバーサルな女性の経験はないということである。そのため、観光という局面においてみられるジェンダー関係を考察するうえで、ホスト側あるいはツーリスト側がどのような女性か、あるいはどのような男性かという点に注目する必要がある。観光によって生じる人間関係は、社会的・文化的および経済的コンテキストにおいて多様性をもつ。男女の多様な経験は、ジェンダーだけではなく、年齢、人種、階級、教育などによって影響を受ける。先行研究には、女性による観光関連の労働が年齢や教育や未婚・既婚の違いなどによって異なることが示されていた。

そのため、観光とジェンダーの関係を考察するうえで注目されるのが、ジェンダーを観光の〈変数〉と捉える立場 (Swain 1995; Richter 1995)<sup>20)</sup> や、性が固定されたものであるのに対して、ジェンダーを人間関係とともに変化するダイナミックな概念として捉える立場 (Cukier et al. 1996: 249) である<sup>21)</sup>。観光という場におけるジェンダー関係が社会的・文化的に構築される諸相には、ジェンダーが観光の表出に影響を与える一方で、観光はジェンダー関係を変化させる要因ともなることが示されていた。性とは異なりダイ

ナミックな概念としてジェンダーを捉える立場はレジャーに対する研究においてもみられる<sup>22) 23)</sup>。

人間関係を基に構築される観光は、地域、さらには広くグローバルなジェンダー関係によってインパクトを受けるとともにインパクトを与えている (Swain 1995: 247)。観光とジェンダーの問題を扱うことは、観光構造全体を対象とするため観光構造の脱構築につながる。そのため、観光とジェンダーの間の相互的な関係を探るためのジェンダー・パステイブは、自律的観光を模索するうえでさまざまな課題を示している。観光という場におけるジェンダー関係は、途上国と先進国という二つの区分や国や地域という違いによってのみ分類することができない多様性を持つ。この点については、さらに多くの国や地域の事例研究が必要とされるが、関係性を示すダイナミックな概念としてジェンダーを捉えた場合、その関係性が観光構造との関わりにおいてどのような要因によって変化するのか、そのモデル化に対する作業が必要であろう。

## 注

- 1) 観光パンフレットにおける男女の表象に関しては、男性は行動的で所有する側として、また女性は受動的で所有される側として捉えられる場合が多い。
- 2) たとえば、イギリスの旅行パンフレットにみられる男女の表象に対する研究においては、ジェンダーがイギリスらしさの構築に関わる要因であること、さらに、ツーリズム・プロダクトを消費する側のゲスト側に対しては、異性のカップルや核家族が「適正」とされることなど、ジェンダーバイアスはホスト側だけでなくツーリスト側の双方においてみられることが示されている (Marshment 1997)。
- 3) たとえば、レジャー施設内のアトラクションの呈示をジェンダーという視点から捉えた論文 (Kuenz 1993) もみられる。
- 4) 批判対象の一人とされるマッカーネル (MacCannell 1989) は、彼の著書 *The Tourist* (初版は1976年) の1989年版の序文において、ジェンダーについて言及している。
- 5) たとえば、バリ島においては、観光は男女ともに多くの職業の選択肢を提供してはいるが、女性は宿泊施設や店舗における労働に就くことができるが、ガイドや輸送に関わる労働には従事できないという (Long and Kinson 1997)。また、イギリスでは、女性は男性と比較した場合、パートタイムが多く、賃金が低いことや、女性が管理職につく比率は低く、マネージャーの多くが男性であることが指摘されている (Purcell 1997)。さらには、雇用者側が男女を特定しない場合、低賃金労働者として女性が雇用される傾向があり、教育やトレーニングは女性の地位向上には関わらないという。
- 6) 性別分業は観光パンフレットにもみられる。たとえばハワイの旅行情報においては、ホストとして登場する男性がインストラクターやシェフなど、技術・技能を必要とする専門職として描かれるケースが多いのに対して、女性は一般の販売員など、とくに熟練・経験・技能を必要とされない労働者として描かれているという (橋本 1999)。
- 7) たとえば、フィリピンの場合、道に面したレストランでは、客を引き付けるという理由で女性がウェイトレスとして雇用される傾向があることが指摘されている (Chant 1997)。
- 8) たとえば、キプロス島北部の大規模なホテルでは、以前は都会の教育のある女性とその担い手

- であったホワイト・カラー用の女性雇用機会が地域の女性に対しても開かれることによって、地域におけるジェンダー関係に変化がみられる (Scott 1997)。
- 9) たとえば、キプロス島北部では、観光関連の労働のなかでも、カジノなどの娯楽施設では外国人女性が雇用される傾向が指摘されている (Scott 1995)。このような、エンターテイメント関連の仕事に就く女性は移動によって仕事に就くことが多い。そのため、女性の移動は観光に関わる女性労働の一つの特徴といえよう。
  - 10) この地域においては、観光関連の仕事に就く女性の家事労働軽減のために、社会的ネットワークが形成されているという (Levy and Lerch 1991)。
  - 11) このような傾向は、スリランカ、スペイン、イギリス、バルバドス、メキシコ、アイルランド、ギリシャ、ベネズエラなどの事例研究においてみられる (安福 1997)。
  - 12) この点については、たとえばスペインのファーム・ツーリズムの事例 (Garcia-Ramon et al. 1995) を参照。
  - 13) スペインの地方からコスタ・ブラバのリゾート地へ移動する若い未婚女性の経済的自立が、男女交際や家庭内における自由度に影響を与えている例もみられる (Lever 1987)。
  - 14) たとえば、サモアの観光産業においては、女性が企業家としてイニシアティブを発揮し、経済的成功を得た女性はその成功を自分のためだけでなく、家族や村の人が新しいスキルを得るための機会としている (Fairbairn-Dunlop 1994)。また、セブ島においては、子育てを自らの経済力において行うなど、女性は家父長制の家族構造から自立しているが、それはホスピタリティ産業に従事する女性たちの収入が地域社会におけるそれと比較して高いことによって可能となっているからであるという (Chant 1997: 155)。
  - 15) ギリシャには、1995年現在において8つの女性共同組合があり、オルタナティブ・ツーリズムの地図に載るようになったという (Iakovidou and Turner 1995: 482)。
  - 16) このような傾向は、伝統工芸品の製作・販売を行う少数民族の女性に関してもみられ、文化圏が異なる他者との出会いが女性のアイデンティティ確立に及ぼす影響について報告されている (Swain 1995; Cone 1995)。また、女性同士の経済的・社会的な支え合いが行なわれているパナマのクナ族の協同組合のリーダー的存在の女性のなかには、以前は男性によって占められていたコミュニティ内の役割を担う者もあらわれているという (Swain 1993)。
  - 17) この点について、たとえばスペインのファーム・ツーリズムにおいては、宿泊施設の運営に携わる女性は、宿泊客の世話をすることによって外の世界に触れ、従来の農作業からは得られない満足感を感じるようになったことが報告されている (Garcia-Ramon et al. 1995)。このような面は、男性にもみられるものであるが、従来の生活においても家庭外におけるインターアクションの機会があった男性と比較して、その機会が限られていた女性が得る満足度はさらに高いという。また、イギリス南西部の漁村セネンでは、観光による女性の経済力が増すとともに、社会的地位の向上がみられる (Ireland 1993)。この地域では、伝統産業の漁業が衰退するなかで興った観光において、女性は観光客と直接接する役割を担い、土地の人々と観光客との仲介的役割を果たしている。
  - 18) 観光客とのインターアクションにおけるジェンダー差は、たとえば、ギリシャにおける観光客との飲酒行動 (ナイトライフ) が地域社会に与える影響や土地の男性と外国人女性観光客との関係が地域社会に及ぼす影響などが報告されている。なお、キプロス島北部では、既婚女性より教育がある未婚女性のほうが観光客とのインターアクションに対する制約が少ないことから、女性間にみられる差も報告されている (Chant 1997)。
  - 19) ホスト側としてばかりでなく、ゲスト側である女性観光客の観光行動に関する研究のなかには、女性観光客と土地の男性との関係を取り上げた報告もある。そのなかでも、女性ツ

- ーリストとビーチ・ボーイの関係が「ホリデー・ロマンス」として、ジェンダーという視点から捉えられている点が注目される。
- 20) ジェンダーを観光に影響を与え、かつその動きに対応する変数として捉えるリッター (Richter 1995: 87) は、観光におけるジェンダーを人種と同様、観光の生産と消費における重要な要素として捉える立場から、社会によって異なるジェンダーや人種の捉えかたがツーリズム・プロダクトの形成に関わることを指摘している。
- 21) ジェンダーは文化的現象であるため、ジェンダー関係の変化は文化変容を引き起こすというスウェイン (Swain 1995: 248-249) は、ホストとゲスト関係は、ジェンダー、階級、年齢、エスニシティ、人種、ナショナリティなどさまざまな特性に焦点を当てることによって分析できると述べる。22) 批判対象の一人とされるマッカーネル (MacCannell 1989) は、彼の著書 *The Tourist* (初版は1976年) の1989年版の序文において、ジェンダーについて言及している。
- 22) レジャー研究においては、レジャーを通じた女性のエンパワーメントの研究が80年代中ごろから行われるようになってきているという (Henderson 1994a: 1)。女性ツーリストの研究については、レジャー研究の成果に学び、かつ連携した研究が行われる必要性が指摘されている (Norris and Wall 1994: 63)。
- 23) レジャーをジェンダーの視点から研究するヘンダーソン (Henderson 1994b: 121) は、「ジェンダーは社会的に構築される一連の関係であり、その関係は人々の行動を通して生産および再生産される」と定義している。

## 文 献

Castelberg-Koulma, M.

- 1991 Greek Women and Tourism: Women's Co-Operatives as an Alternative Form of Organization. In N. Redclift and M. T. Sinclair (eds.) *Working Women: International Perspectives on Labour and Gender Ideology*, pp.197-212. New York: Routledge.

Chant, S.

- 1997 Gender and Tourism Employment in Mexico and the Philippines. In M.T. Sinclair (ed.) *Gender, Work and Tourism*, pp.120-179. London and New York: Routledge.

Cohen, C. B.

- 1995 Marketing Paradise, Making Nation. *Annals of Tourism Research* 22(2): 404-421.

Cone, C. A.

- 1995 Crafting Selves: The lives of Two Mayan Women. *Annals of Tourism Research* 22: 314- 27.

Cukier, J. and G. Wall

- 1994 Informal Tourism Employment: Vendors in Bali, Indonesia. *Tourism Management* 15(6): 464-476.

- 1995 Tourism Employment in Bali: A Gender Analysis. *Tourism Economics* 1(4): 389-401.

Cukier, J., J. Norris and G. Wall

- 1996 The Involvement of Women in the Tourism Industry of Bali, Indonesia. *The Journal of Development Studies* 33(2): 248-270.

Cukier-Snow, J. and G. Wall

- 1993 Tourism Employment: Perspectives from Bali. *Tourism Management* 14(3): 195-201.  
Fairbairn-Dunlop, P.
- 1994 Gender, Culture and Tourism Development in Western Samoa. In V. Kinnaird and D. Hall (eds.) *Tourism: A Gender Analysis*, pp.121-141. Chichester: John Wiley and Sons.
- Garcia-Ramon, M. D., G. Canoves and N. Valdovinos
- 1995 Farm Tourism, Gender and the Environment in Spain. *Annals of Tourism Research* 22: 267-282.
- Graburn, Nelson H. H.
- 1983 Tourism and Prostitution. *Annals of Tourism Research* 10: 437-456.
- 橋本佳恵
- 1999 「観光案内書の写真情報にみられるジェンダー表現に関する研究」『立教観光学研究紀要』1, 25-32。
- Henderson, K. A
- 1994a Broadening an Understanding of Women, Gender, and Leisure. *Journal of Leisure Research* 26(1): 1-17.
- 1994b Perspectives on Analyzing Gender. Women, Gender and Leisure. *Journal of Leisure Research* 26(2): 119-137.
- Iakovidou, O. and C. Turner
- 1995 The Female Gender in Greek Agrotourism. *Annals of Tourism Research* 22: 481-484.
- Ireland, M.
- 1993 Gender and Class Relations in Tourism Employment. *Annals of Tourism Research* 20: 666-684.
- 石森秀三
- 1993 「国際観光学アカデミー——観光研究の最近の動向」『民博通信』47, 70-86。
- Kinnaird, V. and D. Hall (eds.)
- 1994 *Tourism: A Gender Analysis*. Chichester: John Wiley and Sons.
- Kinnaird, V., U. Kothari and D. Hall
- 1994 Tourism: Gender Perspectives. In V. Kinnaird and D. Hall (eds.) *Tourism: A Gender Analysis*, pp.1-34. Chichester: John Wiley and Sons.
- Kousis, M.
- 1989 Tourism and the Family in a Rural Cretan Community. *Annals of Tourism Research* 16: 318-332.
- Kuenz, J.
- 1993 It's a Small World after All: Disney and the Pleasures of Identification. *The South Atlantic Quarterly* 92(1): 63-88.
- Leontidou, L.
- 1994 Gender Dimensions of Tourism in Greece: Employment, Sub-Cultures, and Restructuring. In V. Kinnaird and D. Hall (eds.) *Tourism: A Gender Analysis*, pp.74-105. Chichester: John Wiley and Sons.
- Lever, A.
- 1987 Spanish Tourism Migrants: The Case of Lloret de Mar. *Annals of Tourism Research* 14: 449-470.

- Levy, D. E. and P. B. Lerch  
 1991 Tourism as a Factor in Development: Implications for Gender and Work in Barbados. *Gender and Society* 5(1): 67-85.
- Long, V. H. and S. L. Kindon  
 1997 Gender and Tourism Development in Balinese Village. In M. T. Sinclair (ed.) *Gender, Work and Tourism*, pp.91-119. London and New York: Routledge.
- MacCannell, D.  
 1989 *The Tourist*. New York: Schocken Books.
- Marshment, M.  
 1997 Gender Takes a Holiday: Representation in Holiday Brochures. In M. T. Sinclair (ed.) *Gender, Work and Tourism*, pp.16-34. London and New York: Routledge.
- Momsen, J. H.  
 1994 Tourism, Gender and Development in the Caribbean. In V. Kinnaird and D. Hall (eds.) *Tourism: A Gender Analysis*, pp.106-120. Chichester: John Wiley and Sons.
- Norris, J. and G. Wall  
 1994 Gender and Tourism. In C. P. Cooper and A. Lockwood (eds.) *Progress in Tourism, Recreation and Hospitality Management* 6, pp.57-78. Chichester: John Wiley and Sons.
- Purcell, K.  
 1997 Women's Employment in UK Tourism: Gender Roles and Labour Markets. In M. T. Sinclair (ed.) *Gender, Work and Tourism*, pp.35-59. London and New York: Routledge.
- Richter, L. K.  
 1995 Gender and Race: Neglected Variables in Tourism Research. In R. Butler and D. Pearce (eds.) *Change in Tourism: People, Places, Processes*, pp.71-91. London and New York: Routledge.
- Scott, J.  
 1995 Sexual and National Boundaries in Tourism. *Annals of Tourism Research* 22: 385-403.  
 1997 Changes and Choices: Women and Tourism in Northern Cyprus. In M. T. Sinclair (ed.) *Gender, Work and Tourism*, pp.60-90. London and New York: Routledge.
- Shaw, G. and A. M. Williams  
 1994 *Critical Issues in Tourism: A Geographical Perspective*. Oxford: Blackwell.
- Sinclair M. T. (ed.)  
 1997 *Gender, Work and Tourism*. London and New York: Routledge.
- Sinclair M. T.  
 1997a Issues and Theories of Gender and Work in Tourism. In M.T. Sinclair (ed.) *Gender, Work and Tourism*, pp.1-15. London and New York: Routledge.  
 1997b Gendered Work in Tourism: Comparative Perspectives. In M.T. Sinclair (ed.) *Gender, Work and Tourism*, pp.220-234. London and New York: Routledge.
- Smith, V. L.  
 1992 Boracay, Philippines: A Case Study in "Alternative" Tourism. In V. L. Smith and W. R. Eadington (eds.) *Tourism Alternatives: Potentials and Problems in the*

*Development of Tourism*, pp.135-157. Philadelphia: University of Pennsylvania Press.

Swain, M. B.

1993 Women Producers of Ethnic Arts. *Annals of Tourism Research* 20: 32-51.

1995 Gender in Tourism. *Annals of Tourism Research* 22: 247-266.

Truong, T.

1990 *Sex, Money and Morality: Prostitution and Tourism in Southeast Asia*. London and New Jersey: Zed Books.

安福恵美子

1997 「観光と女性——研究の現状と動向」『東横学園女子短期大学女性文化研究所紀要』6, 37-53。



